

平成23年度宮古群島病害虫発生予報第4号(7月予報)

7月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	60	20
平 年 並	30	30	40
低い(少ない)	20	10	40

(平成23年6月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	28.7	31.6	26.6	130.8	246.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

7月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

アオドウガネの防除対策

- 6月の予察灯への日当たり誘殺成虫数は、14.5頭(前年14.6頭、平年27.4頭)と、やや少なかった。
- 5～7月は成虫の発生時期にあたり、特に6月下旬から7月上旬は成虫の発生ピークであることから、誘殺灯の保全・管理を徹底する。

メイチュウ類の防除対策

- 6月中旬の調査の結果、春植・株出における芯枯茎率は0.4%(前年0.4%、平年3.3%)とやや少なかった。
- 6月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによる日当たりトラップ当たりの誘殺数は15.6頭(前年22.6頭、平年40.0頭)と平年よりやや少なかった。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、食入初期の防除を徹底する。

野その防除対策

- 6月中旬の調査の結果、夏植における被害茎率は0%(前年0%)であった。
- 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- 例年被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

2 マンゴー

収穫後の病害虫防除対策

- 6月中下旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマの葉当たり虫数は0.1頭未満(前年0.4頭、平年1.9頭)とやや少なく、ハダニ類の葉当たり虫数は0.4頭(前年0.6頭)であった。また、一部の施設で軸腐病、かいよう病の発生が見られた。
- アザミウマ類、ハダニ類やカイガラムシ類などの微小害虫は一般的に風雨に弱いことから、収穫を終えた施設は、樹勢回復も兼ねて、早めに被覆ビニールを取り除く。
- 灌水を行う際、噴霧機などで微小害虫を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- 新梢の発生をそろえることで、アザミウマ類防除の効果が高くなることから、施設ごとに剪定を同時期に行う。
- 剪定を行った後の残渣は、病害虫の発生源となるため、速やかに施設外に持ち出し処分する。